

四国・水こぼれ話

Water Information Saloon Shikoku

談話室 Vol. 44

下水処理水は大切な水資源

香川県 多度津町長

おぐに ひろし
小國 宏



「多度津町再生水利用計画」が7年の歳月を経て、ようやくこの3月、全線が繋がりと、完成を迎えた。町長就任以来の念願であり、喜びもひとしおである。

古より讃岐の人々にとって、水の確保は何よりも重要な課題であった。先人は、貴重な水資源を一滴も無駄にしないよう知恵を絞り、工夫を重ねてきた。今は早明浦ダムの建設により、香川用水として、県内一円に近代的な水供給システムが構築されている。

しかし、水は自然の恵みである。平成6年の異常渇水を体験し、私たちは改めて水資源の大切さを認識することとなった。こうした中、私の町は新たな水資源を求め、全国でも初めての試みとして、毎日海へと放流される下水処理水に目を向けた。

当時の建設省下水道部の理解を得て、「水環境創

造事業」の認定を受け、「多度津町再生水利用計画」をスタートさせた。その後、国土交通省をはじめ、農林水産省、環境省、香川県などから多くの支援や知恵を頂戴し、小さな町にとっての大きなプロジェクトは完成に漕ぎ着けた。

完成した施設は、河川の浄化や農業用水の確保、さらには子供にも大人にとってもやさしさのある修景施設を目指したものである。施設では町民の方々の新たな交流が生まれ、せせらぎ水路の清掃、地域や学校で環境教育、ホタルの飼育、健康づくりのウォーキングなど世代を超えて、町民がふれあえる憩いの場となっている。

未来を託す子供たちにはこれらの施設を通して、また自然の中での遊びを通じて、水資源を大切にすることを養い、人や自然とふれあう心を育み、やさしさや生命を大切にすることを心を持った人間として成長してもらいたいと思っている。



ほたるの里



町役場前せせらぎ水路